**アンケートピックアップ**

**7月3日　高知県安芸郡馬路村　前村長　上治　堂司　氏**

**問１ 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

一番楽しみにしていたのがこの馬路村についてだったのでわくわくしながら、いつもより早く教室に来てしまいました。突然ですが、「ごっくん馬路村」がこの世で一番好きな飲み物です。私の地元が高知県なので高知フェアがある際はダース単位で買います。原液をソーダで割ると本当に最高です。一度馬路村に行って、「ごっくん馬路村」に溺れたいです。大ヒット商品にうつつを抜かさず、色々なことに挑戦していて、向上心に感激しました。沢山のアイデアを出す人も、それを実行する人も、企画を通す人も、そしてその企画を許可する人も度胸やユーモアが素晴らしいと感じました。一般的な行政だと歯止めがかかってしまうようなことも実現していて驚きました。なぜ可能なのか、行政の在り方を学びたいです。(都市科学部　都市社会共生学科　1年)

馬路村はたしかに小さな村なのかもしれないが、そこには“何もない”のではなく“価値がある”のだと思いました。木やゆずなどを、元々村の中にあったものに価値を見出し、それを強みとして村の発展・存続に生かしていくやり方は、とても賢いし素敵な発想だと思います。“ブランド化”は、地域おこしにおいて非常に重要なキーワードだと思います。高校時代に私は長野県の伝統工芸品である上田紬に焦点を当てて伝統継承と地域発展に関する課題研究を一年半ほど行いました。そこで、一番重要視したのはやはり、「上田紬の良さを一番活かせるのはなにか」「現代のニーズに合った生産とは何か」という2つの点であり、紬のブランド力を活かしたベビースリングの商品化やそれに伴うサービスを提案しました。上治さんのお話を聞いて改めて振り返ると、それはまさに馬路村での事業と重なる部分があるように思え、個人的にはとても嬉しい気持ちになりました。また、上治さんがおっしゃるように今はSNSなどインターネットの情報発信力がとても強いため、どんなに小さな村でも知ってもらうチャンスがある時代です。ただ地方では自治体などに年配の方が多いのかそれが上手く活用されていないケースが良く見られると思います。地方のHPなどのデザインを見てもそれは明らかです。その点馬路村はネットをきちんと活用していて素晴らしいと思いました。上治さんが視野を広く持っていて心のフットワークが軽かったことがそれを実現させたのではないかと想像しとても尊敬しました。（経済学部　1年）

村の数が全国で一番多いの長野県出身なので親近感と興味を持ちながら聞くことができた。高校までの地域学習で自県の村々の取り組みについて調査したことがあるが、村の特徴を前向きにここまで活用できている村はなかった。木のカバンについては外側の木の温かい手触りや香りと内側のしっかりと機能を考えたデザインが共存しており、素敵だった。(経営学部　1年)

前々から、村おこしについては興味を持っていたので今回の講演は非常に面白かった。どのように人口減を食い止めるのか、それほど名所のない場所でどのように地方自治をしていくのかがよく分かった。一次産業を中心としてブランド化をしていく馬路村の戦略が具体例を通して非常によくわかった。又、もし村がつぶれたら他国にその土地を買い取られる危険性があると知り、非常に怖いと思った。今、中国は水不足であるので常に他国の水資源の買い占めを狙っていることを考えると村の活性化は非常に重要であると改めて感じた。（理工学部　電情EP学科　1年）

中学の頃、社会の授業で先生がごっくん馬路村を持ってきてくれて、とてもおいしかった記憶があるのでとても楽しみにしていました。村自体をブランド化することを目指すという発想はすばらしいと思います。自分たちの村が交通、地理的に不便であることを認識し、自分たちの村の資源や森林といった良いところを伸ばすという分析力がすごいと思いました。ふるさと納税のホームページを見たら、創造以上にいろいろな商品が揃っていてすごいと感じました。サラダボウルが欲しくなりました。（経営学部１年）

「馬路村のブランド化」を掲げて、自立の村づくりを行うため、他の誰もやっていないことを新しくやってきた姿が大変興味深く感じた。まずそもそも、村をブランド化しようという考え方自体が今までになかったし、革新的でクリエイティブさが存分に詰まった村だと思う。村づくりの施策において、１８歳まで医療費無料、出会いの場の参加経費支援など、金銭的な面で施策を行っている所に正直驚いた。住民がより活発的になり、そして、住みやすい村づくり、他から見て魅力溢れる村にするために、様々な視点をもって施策を行えているので、他にない、小さいけど輝くオンリーワンな村になりえている気がする。また、狭い範囲ではなく、世界を相手にした振興施策、東京五輪・パラリンピックとの連携をしている点で、自分の村のために、村から外へ、外から村への相互関係を築いていることが、この取組が続く１つの要因ではないだろうか。（理工　２年）

起業とは異なり限られた資本の中で１つの組織を運営しなければならない点は難しい点だと思いました。その点をカバーするために様々な工夫をされてきたことがよく分かりました。木のトレーのような初めは失敗からスタートし、より工夫を重ねてこられたことが伝わっていました。木のトレーから暑中見舞いのうちわを作り出したのは、中々思いつかない見事な発想だと思います。そのうちわへの思いもとてもたくさん込められており、美しいうちわであるだけでなく使う人、村の宣伝までできてしまうなんて本当に発想力に可能性を感じました。雇用を生み出すのが、様々な良い点を生んでいると感じました。機械化が進み仕事が奪われるような時代が来つつあると思いますが、この手腕はこれから先でも忘れてはいけないことをたくさん教えてくれるのではと感じました。　　（理工学部　化学生命系　３年）

ご講義ありがとうございました。横浜国立大学に入り、多くの四国出身者に出会ったのですが、高知県出身の人に出会ったことはなく、また、自分自身も訪れたことがなかったので、今日お話が聞けて良かったです。私の出身地も田舎で、だんだん子供が減っているという話を聞き、他人事ではないと思いながら聞いていました。地方活性化のためには、地域の特色を最大限に生かすこと(馬路村では「ゆず」と「木」)、ほかの自治体ではやっていないようなことを考えること、1度や2度の失敗であきらめず、何度も改善しながら挑戦することが大切なのだな、と学びました。また、名前の大切さも感じました。例えば、「ごっくん馬路村」というインパクトのある名前や、「バラ風呂」という女性にとっていかにも魅力的な名前など、人を引き付けるような名前付けをすることも重要なポイントだと学びました。(教育人間科学部4年)

土佐弁での講義懐かしかったです。高知にいるときはよくごっくんを飲んでいたのですが、東京に来て飲めなくなっていたので、母親に送ってもらいました。やっぱりごっくん大好きです。トレーの話から馬路村の産業が始まったことは初耳で驚きました。小さな村なのに商業価値がすごい村だというのは、中高の時に授業で習いました。これからもどんどん馬路村に発展していってほしいです。（経済学部　１年）

**問２ 今後のアクションにつなげていきたいこと**

地域おこしービジネスサークルNONで和田町の商店街とコラボして祭りをする。

　　　　　―野毛の祭りに参加する（これは決定していて金曜日にはクラウドファンディングのためにプレスリリースをする予定です。）（理工学部　電情EP学科　1年）

「ごっくん馬路村」が無性に飲みたくてたまらないので、生協に売ってもらえるように要望を出してみます。(都市科学部　都市社会共生学科　1年)

私は地元の復興が人生の一つの目標でもあるので、馬路村を地元と重ねながら、地元の強み・弱みは何かを考えていきたいです。（経営学部　1年）

**授業スタッフの感想**

馬路村は非常に戦略的に村起こしをしている。このり組みの背景には、前村長がおっしゃっていたように馬路村に対する危機感の強さがあると思う。馬路村のノウハウを学ぼうとしながらも「私の村は馬路村より大丈夫」と思ってしまう気持ちはよく分かるが、そのように思わず真剣に取り組むことが大事だ。さらに馬路村の話は村おこしだけでなく、企業など様々に応用可能だ。是非、考え方を参考にしたい。

地方の活性化は今の日本の課題であり、これからの世代にとっても、ますます重要な課題となっていくものだと思います。その中で馬路村の取り組みは、一つのモデルケースとして、今後の地方創生に大きく役立っていくのではないかと感じました。お話の途中に出てきた、インターネットを活用すれば、どこからでも世界中に情報を発信できるということは、私もとても今日感じました。ITを利用することによって、実際に現在人が訪れているわけではない場所や、魅力を伝えづらいことでも、より多くの人に見てもらう機会が生まれるということであり、膨大な広告費をかけずとも、人気を出せるということだと思います。私も今後起業する際に、この点に注目していきたいと考えています。政治的なお話も印象に残りました、地方政治の意見が、より大きな政治のリーダーに理解されにくいというのは、大変大きな問題だと思います。より世界のつながりが増している中とはいえ、地方政治の果たす役割は依然として大きく、若者の関心が政治から離れていく中で、より多くの関心を集めていく方法を考えるべきだと思いました。

今回の講義は普段の講義では聞けないようなお話をたくさん聞けた。同時に村の活性化とビジネスが密接に関わっていることを痛感した。特に印象に残っているのは馬路村特製のうちわのマーケティングで、企業の暑中見舞いに目をつけたところがすごいと思った。オリンピックでも採用されたらいいなと思った。また、夏にどこかに行こうと考えているところなので馬路村も候補の一つとしてぜひ検討したいと思う。そして実際に現場を見るのもありだと思っている。次回の講義では師弟関係についてのお話があるそうなので楽しみである。残りの講義も少なくなってきているので集中して拝聴したいと思う。